

〔趣旨説明〕

多文化な日常における防災 ——『いつも』と『もしも』をつなぐ——

同志社大学人文科学研究所第20期第13研究代表
同志社大学グローバル地域文化学部准教授 王 柳 蘭

本日は同志社大学第99回公開講演会、オンラインでのご参加ありがとうございます。司会の同志社大学グローバル地域文化学部の王柳蘭です。

まず最初に本講演会の趣旨説明と問題意識を共有させていただきます。どうすれば多文化な暮らしをする人たちと平時のみならず、災害時にもつながることができるのか。多文化な日常にはどのような場面があり、どのような多様性があるのか。こうした問いを文化人類学者、地域研究者と防災研究者、さらに外国人住民を含む人々が実践と研究事例を報告しあい、さらにパネリストとのディスカッションを通して平時のみならず、非常時のリスクをも包摂した多文化共生に向けた持続可能な社会を考えていくことを目指しています。キーワードは「いつも」と「もしも」です。「もしも」を「いつも」との連続性の中で考えていくこと、そこにポイントを置いています。なお、今回の研究成果は、同志社大学人文科学研究所での研究活動に加え、2019年度JR西日本あんしん社会財団による助成をえた成果の一端となっております。では発表に移ります。最初は京都八幡モスク・イスラミックリサー

チセンタージャパンの代表であるラムダン・ミルザさんをお願いします。よろしく申し上げます。